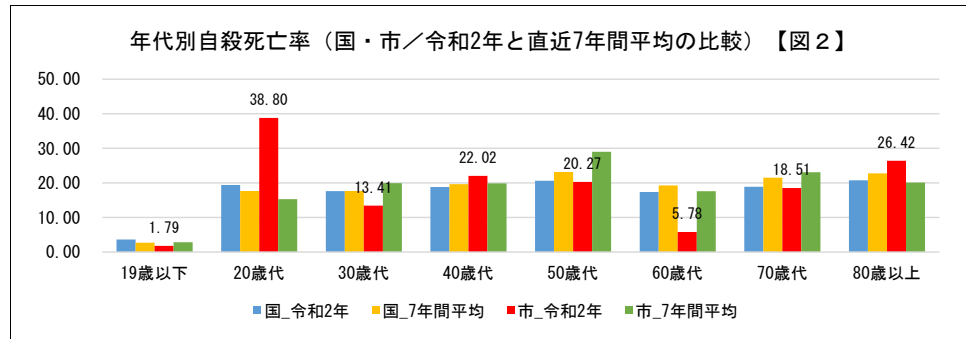
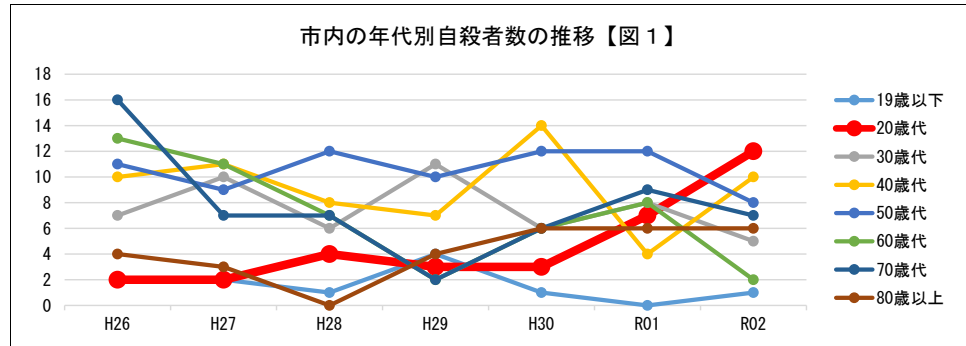


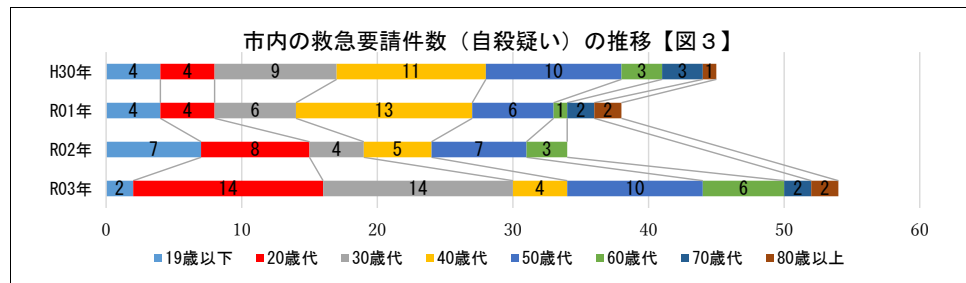
【明石市における自殺の現状 ②】

① 年代別自殺者数・自殺死亡率（自殺既遂者）



【図1】直近7年間のうち、3年前まで3~4人で推移していた「20歳代」の自殺者数が2年連続で増加。令和元年に過去最多の年間7人、令和2年はさらに増えて年間12人となり、年代別でも最多人数となった。
 【図2】年代別自殺死亡率（人口10万人あたりの死者数）については、全国（令和2年）は、「19歳以下」と「20歳代」で全国（直近7年間平均）を上回って若年層自殺の増加傾向が認められるものの、他の年代では下回った。一方、市においては、市（令和2年）の「20歳代」が、市（直近7年間平均）や全国（令和2年・直近7年間平均）を突出して上回っており、「20歳代」の自殺者が急増している。

② 救急要請件数（自殺未遂者を含む）



※ H30年は4月~12月の9か月間、R03年は1月~8月の8か月間

【図3】は、本市保健所が設置された平成30年4月以降、自殺行為により救急要請があった件数を年代別にしたものであり、自殺未遂者も含まれている。令和元年までは「40歳代」が最も多かったが、以降減少しており、令和2年では「20歳代」の救急要請が8件で最多、次いで「19歳以下」が7件と続いた。

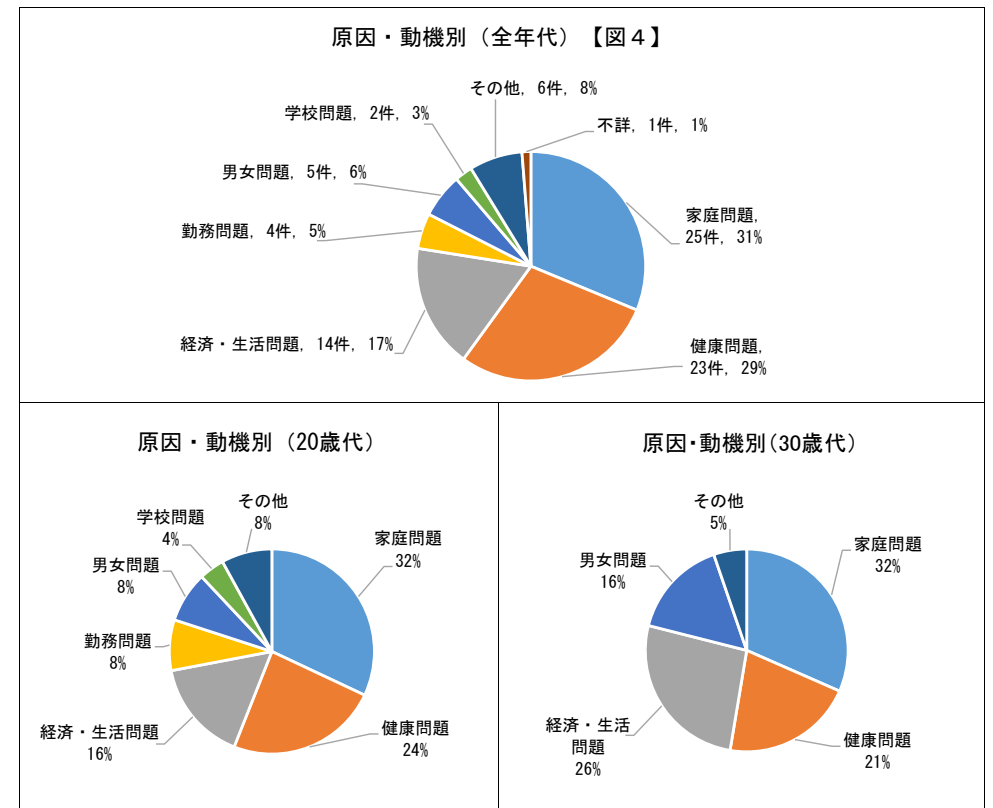
令和3年は8か月間で過去3年の年間件数を既に上回っており、特に「20歳代」、「30歳代」の自殺行為による救急要請がともに14件で計28件にまで増え、全54件の半数を超えている。

③ 自殺の原因・動機（自殺未遂者を含む）

【表1】

年代	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
人数	2人	12人	11人	6人	7人	1人	4人	0人	43人

※ 令和3年1月~8月の8か月間



【表1】は、相談支援課で支援を行っている者のうち、今年1月~8月の間で既遂・未遂に関わらず自殺を実行に移した者の数である。総数43人のうち、「20歳代」が12人と最も多く、次いで「30歳代」が11人であった。

【図4】原因・動機別（1人あたり3項目まで選択）では、「家庭問題」が最も多く、「健康問題」、「経済・生活問題」と続いた。「20歳代」では「全年代」とほぼ同様の構成であるが、「30歳代」では「経済・生活問題」の割合が「健康問題」の割合を上回った。